

介護老人保健施設オアシス21

症例概要 入所者氏名： K・I 様 女性 70代 要介護度4

病名：右視床出血後遺症（左麻痺）・高血圧症・脂質異常症・腰椎圧迫骨折後

令和2年12月、ご自宅で転んで動けない状態でしたところをご家族が発見し他社のケアマネを通してオアシス21に相談があり、越冬とリハビリ目的でオアシスに入所となった利用者さん。初めての施設入所で全く馴染めなくいたところ、多職種での寄り添うケアで、施設入所時の生活が改善されただけでなく、身体機能向上や在宅復帰後の生活も改善された症例。

内 容

もともと、在宅では通所介護を利用されていましたが、なかなか馴染めず、通所でのお風呂も拒否されていました。特に今回は介護施設の入所は初めてで、人の多さに圧倒され、人見知り、心配性の性格ということもあり、入所時は部屋に完全に閉じこもり食事以外はベッド上で過ごされていました。

看護、ケアマネ、介護職員、セラピストは施設での生活に馴染んでもらおうと常に声をかけ続けましたが、1ヶ月経っても他の利用者さんとの交流をすることはありませんでした。

そこで、職員で検討した結果、ホールの一角にご本人専用の特別席をつくり、少しずつ慣れていただく工夫。

多職種が寄り添って傾聴し、オアシスの活動の様子をお話すると、何とかホールの専用席に座って頂けるようになりました。

ここでも職員が寄り添ってお話することで体操に参加。また、他利用者さんとのコミュニケーションも取れ、お琴の演奏会やケーキバイキング等のレクリエーションにも参加していただけるようになりました。

入所時は立位、移乗、トイレ動作は不安定でしたが、2ヶ月後には歩行器での歩行も安定、一人でトイレに行けるようにまで改善できました。

令和3年4月に越冬期間が終わり「早く帰ってご飯を作りたい。」と嬉しそうな表情で自宅へ帰られました。その時は「これからはデイサービスでもお風呂に入るよ。また今度の冬に来るね。」と仰っていただきました。

初めての施設入所で人見知りもあり、馴染めなく独りぼっちだった利用者さんに対し、多職種で寄り添うケアを行ったことで、オアシスでの生活の楽しみも生まれ、リハビリでの身体機能の向上、在宅復帰後は

今まで嫌いだった通所介護にも積極的に行かれるなど、退所後の生活も改善できたことはキラキラ介護賞に値すると思ひ推薦いたします。